

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷(東ユニット)		
所在地	島根県松江市八束町二子1025-9		
自己評価作成日	平成25年3月4日	評価結果市町村受理日	平成25年5月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	平成25年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな恵まれた環境の中、のんびりと思いいい過ごしていただけるよう、一人ひとりのペースを大事にしながら、日々生活していただいています。ふれあいを大切にしながら穏やかで心地いい場所であるよう努めています。  
また、施設の畑でできた新鮮な野菜や、獲れたての魚を使った献立を栄養士が考え、バランスの良い食事を提供するよう努め、利用者の皆様にも喜んでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

暖かくなると周辺に花が咲き乱れる大変良い環境の中にあり、周りは平坦で広々と開放感を感じる。近くに民家が無く地域とのつながりは築きにくいですが、数年前の豪雪時の反省から備蓄を始めたり、火事などの場合には、唯一近くにある工場との連携を持つことを検討したりと、施設全体で防災意識を高めている。畑で採れた野菜を加工して食材にしたり、新鮮な魚介類を用いたり、食事面では手作り感が心地よい。開所から7年が経過し、地域で1つのグループホームとして他の介護サービスとの連携を深めたり、今までの経験を生かした啓発的な活動に期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型サービスの意義をふまえた理念についての話し合いをしてつくり、玄関前の掲示板やステーションに掲げ意識付けをしながら実践に向けて日々取り組んでいる。	平成24年に以前の理念を踏まえ、職員全員で話し合い、地域密着型ということ意識したものに作り直した。玄関や事務所内の目に付きやすい場所に掲示し、皆で共有できるように朝礼や会議の席でも取り上げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がボランティアで来苑されたり、収穫した野菜を頂いたり、草取りなどのお手伝いをしていただいている。また、保育園児の来苑や、地域の方を招いて茶話会を行っている。	施設周りには民家がなく、関係は築きにくい。が、苑便りを作成し公共の場所に設置するなど、地域とのつながりを持つように努めている。	会議、ボランティア等色々なものを利用して、地域との関係が少しでも広がるよう検討いただきたい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に新聞を発行しており、地域の方にも気軽に見ていただけるよう、包括支援センターや支所等にも置かせてもらっている。直接相談に来られることも多く、グループホームの理解や取り組みについての説明をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、行事や研修等活動報告を行うと共に議題についての話し合いや、意見交換を行い、参考にしながらサービスの向上につなげている。	家族、地域関係者、市の包括等の参加を得て、2ヶ月に1回定期的に開催している。行事の様子や利用者状況を知らせたり、意見交換が行われている。	家族や地域関係者の参加を増やすことでより多くの意見が聞ける場を持つよう検討いただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所に関する相談や、生活保護への対応等も連絡を取り合いながら行い、日頃から協力関係が築けるよう努めている。	運営推進会議には毎回参加があり、意見をもらっている。包括からは利用者の紹介があったり、生活保護利用者についての問い合わせをしたり、いい関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に出入りできるよう日中は玄関を開放している。施設内研修を行い、職員全員が理解し、実践に向けたケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に努めている。1つ1つの行為を取りあげ、施設内での研修を行ったり、外部での研修にも参加している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や、施設内での研修、運営推進会議での議題にするなど積極的に学ぶ機会を設け、取り組み、職員同士がお互いに注意し合える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して学び、活用していけるようさらに知識を身につながら、必要時には支援していけるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には本人、家族に十分説明し、理解、同意を得てから手続きを進めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情相談窓口についての説明をし、意見箱の設置を行っている。日頃から利用者からの意見や困りごとにも耳を傾け、家族の面会時にも話す機会を設けている。	年に2回居室担当から様子を伝える便りを出しており、面会時にも意見を聞くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議や職員会議で、職員が提案したり、意見が言える場となっており、話し合いを行い反映させている。	職員からの提案や、ケアの部分での意見等、会議の場だけでなく日頃からよく意見が出ており、その都度解決するようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の能力や経験を考慮し、業務内容等配慮している。希望休を望む職員に対して考慮し勤務の調整を行っている。資格手当、超勤手当をつけるなど、モチベーションアップにつなげている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規職員、パートタイマー職員にこだわらず外部研修や資格取得に向けての研修に積極的に参加している。毎月の施設内研修についても、全員が受けられるよう2～3日に分けて行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、他事業所との意見交換の場を設けている。新館職員との交換研修等を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族も交え本人と関わる時間を増やし、コミュニケーションをとりながら、心配事や不安がなくなるよう要望を受け入れ、関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を設け、ご家族のお話を傾聴し要望等に答えながら、安心してご利用頂けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを受け入れ、どのようなサービスが必要かを見極め、当事業所に限らず、他のサービスについても紹介している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で教わることも多く、お互いに助け合いながら共に暮らせるよう信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡など、こまめに利用者の状況報告を行い、相談しながら家族の方と共に本人への支援に繋げている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物を居室に置いたり、家族以外にも親戚や友人、近所の方などの面会や外出の支援も行っている。	以前からの行きつけの理美容院には、来苑してもらったり、行く機会を持ったりと支援をしている。遠方からの、家族や親戚等の面会も多く、ゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わりを大切に声かけを行い、見守りを行っている。孤立せず関わり合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、他施設に入所された方には面会に訪問したり、本人と家族が来所されることもある。必要時には家族の相談にも応じ、これまでの関係性を大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思いや意向の把握に努め、拾い上げた言葉は経過記録に残し、本人本意に検討している。	日頃から信頼関係を築くようしており、普段のコミュニケーションの中から本音を聞き出し、表情からも組み取るようになっている。家族の方には面会時を利用して話すようになっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人等とのコミュニケーションを大切に、これまで本人が過ごしてきたお話をうかがうなど把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの関わりを大切に、様子を知り、常に職員間で情報を共有しながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、随時カンファレンスを行い、家族や医師も交えながらそれぞれの意向に沿うよう見直し、ケアプランを作成している。	1ヶ月ごとに評価をするようしており、カンファレンスでの意見を基に計画作成にあっている。かかりつけ医の受診に付添い様子を伝え、意見をもらい計画に組み入れるようしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯で一覧の申し送り記録用紙を活用しながら、ケアの実践、気づき等記入し、職員間で情報を共有しケアに活かせるよう詳細を個人記録に残している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が付き添えない時の受診や理髪店、美容院、買い物など柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の来訪によりハンドベルの演奏会や、紙芝居、日本舞踊を楽しむ機会があった。さらに地域資源の把握に努め、支援に活かせるよう努めていきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から本人や家族の希望を受け入れ対応を行っている。かかりつけ医との協力関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。	緊急時にも対応可能な協力医を確保している。家族の受診対応が難しい場合は施設で対応しており、こちらでの様子をバイタルを含めドクターに伝え、的確な指示を受けられるように支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には随時相談し、看護師の不在時には協力医の看護師に電話等で指示をあおぐなど連携を取りながら適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、訪問した際には医師や看護師より状況の把握に努め、退院時にはカンファレンスに出向いたり、サマリーや電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師を交えたカンファレンスを行い、事業所でできることを十分に説明したうえで、方針を共有し連携をとりながら支援している。	ここで対応できる行為については、話し合いの機会を持ち、詳しい説明を行い理解を得るようにしている。できるだけ長く施設で生活できるように、協力医を含めて段階を追って対応を検討するようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て心配蘇生法、応急手当の訓練を行っている。ステーションにフローチャートや、対応マニュアル等を貼り周知している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に、マニュアルの作成、避難訓練を行い、備蓄も揃えながら、訓練に地域の方も参加してもらうなど協力体制を整えている。	年に2回の避難訓練や救急法の訓練も実施している。より実践に沿ったものになるよう、ビデオも取り入れている。数年前の豪雪を期に、備蓄も準備したり、防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、あいさつや声がけ、介助を行っている。	マニュアルを作成し気をつけるようにしている。ケアの部分では、声がけ等に配慮しており、1つ1つの行為についても、振り返りを行うようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中で思いや、意向を聞き、自己決定できるような声がけや支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら声がけを行い、本人の意向に沿った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いを大切に、衣類選び、希望があれば買い物や、理髪店、美容院への外出支援、髭剃り、爪きり、化粧等の支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けのお手伝いをしてもらったり、会話を入れながら食事の時間が楽しめるよう努めている。	調理の下準備では皮むきや刻んだり、片づけの洗い物や食器拭きなど、できる方が手伝っている。外食を希望される場合も、外出を兼ねて出かけるよう計画し、楽しめるように支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、バランスのとれた食事を提供している。食事量、水分量をチェック表に記入し、水分も好みのものなどをこまめに提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけや介助により口腔ケアを行っている。一人ひとりに合わせたケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、失敗を減らすよう努めている。二人介助が必要な方でもトイレで排泄できるよう支援している。	重度でオムツ使用者も多いが、日中は二人介助でトイレを利用するようにしている。誘導が必要な方には、排泄パターンを把握して、さりげない声がけを行うようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には水分摂取を促したり、散歩等を働きかけている。処方されている便秘薬にてコントロールしている方もおられる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声がけを行い、本人にあわせて、体調が悪かったり、気分が優れないときは他の日にしている。	毎日入浴出来るようになっており、その度に希望を聞いて対応するようにしている。重度の方には2人対応で介助し負担にならないように配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にこだわらず、一人ひとりのリズムに合わせた対応を行っている。夜間、なかなか寝つけないときは、お茶を提供し話を聞いたり、テレビを見てもらうなど、安心して休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の様子観察により症状の変化に早期対応できるように努め、薬の処方内容が変わる場合は、口頭で申し送り、申し送りノートにも記録し、誤薬のないよう支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割をもってもらい、自ら洗濯物をたたんだり、食事の準備や片付けを手伝っていただけるような環境づくりに努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出られる方には見守りや、付き添って散歩したり、職員や家族とドライブに出かけることもある。天気の良い日は外でお弁当や茶話会を行うこともある。	お弁当を持って出かけたり、外食をしたり、できるだけ外出の機会を多く持つようにしている。個人的に外出を希望する方には、家族に呼びかけ実施できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお小遣い程度のお金を所持しておられる方もあり、希望時には買い物の支援もやっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人との電話のとりつき、年賀状や、手紙のやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節の花を飾ったり、毎月利用者の方の作品等季節感のある飾り付けを工夫している。また、混乱をまねくような刺激がないように十分配慮している。	リビング的な場所からは中庭が見えて明るい陽射しが入り、居心地の良い空間になっている。多くの方が集合できる広いホールもあり、全体での行事開催も可能になっている。窓から花見が楽しめ、季節感を感じられるいい環境にある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にソファやテーブル、テレビ等設置しており、利用者の方が自由に使用できるようにし、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや、使い慣れたものを置かれたり、家族と相談しながら、居心地よく過ごせるよう居室を工夫している。	使い慣れた物の持ち込みを積極的に進めている。タンス、テレビ、テーブルなどを置いたり、家族写真を飾ったりして、落ち着いて過ごせるように工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、安全に行動できるよう手すりも設置されている。必要に応じコールボタンを押されたり、マットコールの設置により見守りを行っている。		